

## 令和6年度 第1回大阪市北区地域福祉推進会議 議事録

- 1 開催日時:令和6年5月30日(木)午後2時00分～午後3時50分
- 2 開催場所:北区役所4階 402・403 会議室
- 3 出席者 :出席者名簿のとおり
- 4 会議資料:別添のとおり
- 5 司会 :北区役所 福祉課長代理 岡田 智子
- 6 議長 :神戸学院大学 准教授 川本 健太郎
- 7 副議長 :北区社会福祉協議会 会長 小玉 始

### <議事録>

#### (司会)

定刻になりましたので、只今から、令和6年度 第1回大阪市北区地域福祉推進会議を開会させていただきます。本日は、お忙しいなかご出席いただきましてありがとうございます。私は本日の司会を担当させていただきます、福祉課長代理の岡田でございます。どうぞよろしく願いいたします。

なお、本会議ですが暑くなってきておりますので、クールビズでの会議の出席の方をさせていただいております。どうぞ皆様も、お暑ければネクタイなどを外していただきますようお願いいたします。

また、本会議は、議事録の公表のため録音させていただいておりますことをあらかじめ周知させていただきます。それでは開会にあたりまして、木戸保健福祉センター所長からご挨拶申し上げます。

#### (木戸保健福祉センター所長)

北区保健福祉センター所長の木戸でございます。本日は、令和6年度「第1回 北区地域福祉推進会議」に、ご多用のところ、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、平素から大阪市政並びに北区政の各般に、格別のご支援・ご協力をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

北区では、昨今のマンション世帯の増加による居住形態の変化に伴い、地域における繋がり希薄化が進んでいる中、皆様方には、日頃から声掛けや顔の見える関係づくりを推進し、地域が繋がり支え合うまちづくりに、ご尽力されておられることに、重ねて感謝申し上げます。

本年度、第1回目地域福祉推進会議ということで、委員の皆さまにおかれましては、初めて参加される方もいらっしゃると思います。また、学識者としても、この間、令和元年から北区の地域福祉の推進にご尽力いただいている平尾先生に加えて、今回、新たに神

戸学院大学 准教授の川本健太郎先生に、ご就任いただくことになりました。川本先生は、この北区にゆかりがあるということで地域の皆さまと同じく熱い思いで、ご参加いただけると嬉しく思っております。

さて、令和2年3月に「第2期北区地域福祉計画」を策定いたしまして、その「第2期計画」も残すところ1年を切っております。この間、令和4年6月の中間見直しで「付帯決議」を追加し、この「地域福祉推進会議」などで、ご意見をいただきながら進めてまいりました。

現在は、今年度末である3月策定予定の次期「第3期計画」を見据えた議論を進めてきており、前回、3月に開催いたしました会議でもその方向性についてご説明をさせていただいたところになります。本日の会議では、昨年度までの取組を振り返り、課題や今後の方向性を委員の皆様方から様々なご意見を賜りたいと考えておりますので、どうかよろしくお願ひいたします。

最後になりますが、北区役所といたしましては、引き続き、福祉施策を重点的に取り組むことで、「北区地域福祉計画」の基本理念でございます「人と人とのつながりと支え合いのまち 北区」を目指し、尽力してまいりますので、委員の皆様方におかれましても、今後とも、より一層のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。

それでは、川本先生、平尾先生、そして委員の皆さま、本日は、どうぞよろしくお願ひ致します。

(司会)

ありがとうございます。続きまして、学識者といたしましてご出席いただいております先生方をご紹介させていただきます。

まず初めに今年度新たにご就任いただきました、神戸学院大学 准教授の川本健太郎様。

川本健太郎様におかれましては、現在、箕面市の地域福祉活動計画推進委員会委員長、三田市の地域福祉審議会会長をお勤めになられております。

続きまして、今年度も引き続き就任をお願いしております。元関西学院大学 助教の平尾昌也様です。一言ずつごあいさつをいただきましたらよろしくお願ひいたします。

(川本委員)

神戸学院大学の川本と申します。私自身は、本庄小学校、豊崎中学校出身でございます。会長の後輩で、また色々な先輩方がいる中で、学識というのも非常におこがましいんですけども、いろいろと勉強させていただければと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

(平尾委員)

平尾と申します。よろしくお願いいいたします。もう長いつき合いになってきたなという感じはあるんですが、どこまで私が北区の地域福祉の推進にお力添えができるのかというのは、大変不安ではございますが、できる限り皆さんと一緒に議論を深めていけたらなというふうに思っておりますので今後とも、これからもよろしくお願いいいたします。

(司会)

お 2 人には北区の第三期計画の策定会議の委員も就任していただいております、平尾先生につきましては、北区地域支援連絡会議にもご参画いただいておりますことをお伝えいたします。続きまして、会議にご出席いただいております委員の皆様を紹介いたします。

北区社会福祉協議会 会長 小玉始様。

(小玉委員)

小玉でございます。よろしくお付き合いのほどお願い申し上げます。  
本日はどうもありがとうございます。

(司会)

北区民生委員児童委員協議会 会長 辻博志様でございます。

(辻委員)

辻でございます。まだ、会長をいただいてから 1 年半ほどしか経ってませんので、詳しい内容がはっきりわかっておりません。これからもどんどん勉強させていただきます。どうぞよろしくお願いいいたします。

(司会)

北区地域振興会 会長 岩岸敏雄様でございます。

(岩岸委員)

よろしく願います。

(司会)

北区地域女性団体協議会 会長 渡島清美様。

(渡島委員)

はい。渡島清美です。どうぞよろしくお願いいいたします。

何もわかりませんが今日から参加させていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。  
ます。

(司会)

北区医師会 副会長 米田円様。

(米田委員)

米田です。今までは、地域支援連絡会議の方に参加させていただいていました。本日はよろしくお願ひします。

(司会)

北区歯科医師会 会長 岡田修二様。

(岡田委員)

歯科医師会の岡田でございます。どうぞよろしくお願ひします。

(司会)

北区薬剤師会 会長 坂東俊完様。

(坂東委員)

坂東です、どうぞよろしくお願ひいたします。北と大淀の合併推薦ということで、大淀の薬剤師会がこの3月をもって解散されまして、北区1つとなっております。毎年、参加するという形になると思います。よろしくお願ひいたします。

(司会)

鶴満寺聚楽院 施設長 長谷川眞哲様。

(長谷川委員)

長谷川です。どうぞよろしくお願ひします。

(司会)

北区社会福祉協議会 事務局長 松本聡美様。

(松本委員)

松本でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

(司会)

なお、北区身体障がい者団体協議会 会長竹本有吾様におかれましては、本日欠席しております。

続きまして、北区役所から出席しております職員を紹介いたします。

保健福祉センター所長 木戸でございます。

地域課長 小林でございます。

生活支援課長 高下でございます。

健康課長 兼坂でございます。

事務局より福祉課長 中野でございます。

福祉課 子育て支援担当課長代理の岡本でございます。

福祉課 担当係長 牧島でございます。

福祉課 担当係長 福田でございます。

福祉課 担当係員 太田でございます。

司会の福祉課 課長代理、岡田といいます。

なお、政策推進課長の池西については本日欠席となります。

また北区社会福祉協議会から、地域支援担当係長 西森係長、同じく地域支援担当係長、西坂係長もご参加いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは議題に移らせていただきます。

議題1の当会議の議長、副議長の選任についてとなります。

会議要綱第4条に、推進会議の議長は委員の互選により定めると規定があり、この間、推進会議の議長については、学識者の先生方をお願いをしてきた経過がございますので、議事の進行役としての議長を事務局より推薦させていただきたいと存じます。

今年度につきましては、学識者より、神戸学院大学准教授の川本委員をお願いしたいと存じますが、皆様いかがでございましょうか。

(会場内より)

異議なし。

(司会)

ありがとうございます。それでは皆様からの拍手によりご承認をいただきましたので、川本委員に議長をお願いいたします。

それでは続きまして、川本議長には副議長のご指名をお願いいたします。

(川本議長)

はい。副議長にはですね、昨年度に引き続き、小玉委員をお願いしてもよろしいでしょうか。

賛成の方は拍手で承認をお願いいたします。

(小玉副議長)

ただいま選任されました、小玉でございます。どうぞ最後までよろしくお願いを申し上げます。ありがとうございます。

(司会)

ありがとうございました。それでは皆様の拍手によりご承認いただきましたので、副議長については、小玉委員をお願いいたします。それでは、これからの議事進行は川本議長をお願いいたします。川本議長、よろしくをお願いいたします。

(川本議長)

はい。改めましてよろしくをお願いいたします。いきなり議長という大役を仰せつかったわけですけれども、小玉大先輩が断られたということもありました。それぐらいの経緯がございます、私に役が回ってきたということをお含みおきをしていただければと思います。

北区は本当に僕の地元ということで、天満も親しみのある町でございます、非常に楽しく毎回来させていただくことができるんじゃないかなというふうにも思っています。

これまでの経緯等は僕よりも平尾先生のほか、小玉副議長、また皆さんの方が、よく知っておられるというふうに思ってますけれども、いろいろとご指導いただきながら、円滑に進行を務めさせていただければというふうに思いますので、最後までどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは議事を進めて参りたいと思っておりますけれども、15時50分までには終わりたいというふうに思っていますので、皆さんご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは早速議題に入参りたいと思っております。

議題 2、北区地域福祉計画令和 5 年度の成果と今後の課題につきましてということで事務局より説明のほどをお願いいたします。

(事務局)。

福祉課の牧島と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私の方からは、第 2 号議案という形でご提案をさせていただきます。

まず、本日の資料の確認をお願いいたします。会議の次第、委員名簿、共に1枚ものとなります。

会議の議題で使用する資料は、4点ありまして、【別紙1】の2種類と、【別紙2】、【別紙3】の合計4種類があります。

1つ目は、右上に【別紙1】と記載され、左上の資料名に「北区地域福祉計画 令和5

年度の成果と今後の課題について」が記載しておりますA3サイズのホッチキス止め資料。

2つ目は、右上に【別紙1(説明資料)】と記載されている「パワーポイントの資料」となります。

3つ目は、右上に【別紙2】と記載されている「これまでの地域福祉推進会議、地域支援連絡会議での検討内容」(第1期・第2期地域福祉計画)となります。

4つ目は、A4サイズの横向きの資料となります。右上に【別紙3】と記載されている「第3期北区地域福祉計画策定の進捗について」の以上4点となります。ご確認にいただけましたでしょうか？毎年、この第1回目の会議は、昨年度1年間の取組内容を確認していただくことになっておりまして、資料内容が膨大な量となっておりますので、委員の皆様方には、事前に資料を配付させていただき、ご覧いただいているかと思っておりますので、説明は簡潔にさせていただきます。

私の勝手なこだわりといいますか取り組みで、会議資料を新しい委員にお配りするときは、委員さんが活動されている地域の拝見とお顔合わせをさせていただくために、自分自身が自転車で現場を廻ってお持ちするということに取り組んでいます。お仕事とか、お留守の方もいらっしゃるんですけども、新しくなられた委員さんの医院であったり、活動されているところに行かせてもらって、その地域を見させてもらって、会議の前に、一度お顔を合わせてさせていただくということをやらせていただいております。

では、資料の説明に入ります。

1つ目の資料【別紙1】については、各種取り組みの柱や主体ごとに、令和4年度と令和5年度の成果と課題と方向性が、“細かく”記載されております。

資料が9ページに渡り、沢山あり、取り組み内容も細かく記載されておりますので、本日の会議では、2つ目の資料【別紙1(参考資料)】のパワーポイント資料、こちらの資料だけを使って説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料を使って説明をさせていただきます。会議室正面のプロジェクターでも同じ映像を映しておりますのでご参考としてください。

各イラスト・画面の右下には、ページ番号を記載しております。

1ページ 題名を記載しております。

2ページ こちらが、第2期福祉計画のポイントとなります。

基本理念は「人と人とのつながりと支え合いのまち北区」とあり、

そして、取り組みの柱として、「3つの柱」、「大切にしたい6つ視点」を記載しています。令和2年に策定しました「北区の第2期福祉計画」ですが、当初は5つの視点で取組を進めてきましたが、令和4年6月の地域福祉推進会議において、中間年の見直しとして、大切にしたい視点に新しく「気にかける地域づくり」として、付帯決議を追加しています。

4ページからは、「3つの柱」の具体的な取り組みを記載しております。

「1 地域でつながり支え合う活動の支援」としまして、その取り組みの目標と、将来イメージを記載しております。

5ページは、4ページの具体的な、詳細な取り組み内容を記載し、6ページは、北区における令和5年度の取り組んだ実際の内容を記載しております。

◆の1つ目として、地域でつながり支え合う活動の支援では、ふれあい喫茶・食事サービス・いきいき百歳体操・はつらつ脳活性化教室を開催してきた中で、コロナ禍を経験し、地域の支え合いや事業継続の大切さを学び、各地域が工夫を重ねて事業を継続させてきたこと。

◆の2つ目として、小地域福祉活動計画に基づく活動の推進では、地域における実情・特性に即した課題の解決に向けた活動の支援を区社協を中心に行ってきており、令和5年度では、大淀西と豊崎東の2地域において第2期の小地域福祉活動の策定を行ってきました。

◆の3つ目として、マンションコミュニティの形成に向けた支援では、区内の約9割がマンション世帯であることを踏まえ、マンション内の居住者同士のつながりづくりや、マンション内外の交流、連携を促進し、地域コミュニティの活性化を図る参加・参画を促す事業を推進とありまして、区役所の地域課、区社協、包括支援センター等が取り組んできています。

7ページには、①災害時にも支え合えるつながりづくりとしての、活動の実績内容を掲載し、

8ページには、③地域福祉活動への多様な主体の参画と協働の推進としての、活動の実績内容として、フードドライブ、フードパントリー、スマホ教室の開催や、スポーツイベントの取組を掲載しております。

9ページは、「3つの柱」の2つ目として、「2“きめの細かい”相談・支援の充実」としまして、その取り組みの目標と、将来イメージを記載しており、10 ページは、9ページの具体的な、詳細な取り組み内容を記載し、11 ページから 14 ページに、各項目ごとの北区における令和5年度の取り組んだ実際の内容を記載しております。

15 ページは、「3つの柱」の3つ目として、「3 ふくしのまなび」としまして、その取り組みの目標と、将来イメージを記載しており、16 ページは、15 ページの具体的な、詳細な取り組み内容を記載し、17 ページと18 ページに、各項目ごとの北区における令和5年度の取り組んだ実際の内容を記載しております。

こちらのほうは、北区でどういうことをやってきたかという取り組みを記載しておりまして、福祉教育の継続という形で、認知症のサポーターを養成してきたり、あと、区役所の福祉課においても、大学生の学生を受け入れて、実際に福祉行政を学ぶという形で、人材育成を推進したり、また事務職が、社会福祉主事の任用資格を取るために、研修講座を受けたり、福祉の学びを取り進めているということを掲載させていただいております。

す。

最終ページの19ページに、今後の課題と進め方をまとめさせていただきました。

前回、3月22日に開催された地域福祉推進会議でも、各委員さんから様々なご意見をいただいております。

- ・北区の特性である、マンションコミュニティとのつながりづくり や
- ・19地域それぞれの個性を活かした活動や取組の継続
- ・民生委員児童委員協議会や障がい自立支援協議会の独自の取組
- ・情報発信や情報共有の方法の課題など、一方的な情報発信ではなく、一人でも多くの方へ、地域の活動や北区の地域福祉計画が共有させるような取り組みであるとか、貴重なご意見をお聞かせいただいておりますので、次期計画の策定に向けて、現行計画の取組や課題について、検証と構築を繰り返して、意見聴取や区役所内会議や策定会議等での議論を踏まえ、この間、ご議論いただきました、北区の次期計画のキーワードと成り得る「気にかける」から「気にかける地域づくりにむけて」、令和7年3月までに策定する第3期の福祉計画へ上手くバトンが引き継がれるよう取り組みを進めていくこととなります。

続きまして、【別紙2】「これまでの地域福祉推進会議、地域支援連絡会議での検討内容」(第1期・第2期地域福祉計画)については、参考にお渡しさせていただいた資料となっております。

「地域福祉推進会議とは」、「地域支援連絡会議とは」ということで、それぞれの会議体の位置付けや役割を掲載しています。

また、第1期計画の当初から、これまで会議で取り扱った議題内容を全て掲載し、8ページ以降には、第1期から第2期へ移行した際の整理内容が掲載しております。

第3期計画の進捗については、この後の議題3でご説明させていただきます。

以上が、令和5年度の取り組みと成果の報告となります。

(川本議長)

はい。ありがとうございます。

内容的には非常にボリュームのある取り組みを5年間かけて進められていたということもありまして、かなり記憶をたどりながらという委員の皆様も多いかなというふうに思いますが、今ちょっと端的に要点をご説明いただきましたけれども、何かご意見ご質問等ございましたら、ぜひと思っておりますがいかがでしょうか。

私の方からちょっといろいろとお聞きしたいなというふうに思うんですけれども、まず、辻委員、いかがでしょうか。この間の取り組みも含めて、ご感想等もいただければ嬉しいです。

(辻委員)

まず私たち民生委員は、この頃、守備範囲がものすごく広がっています。まず、子どもの問題。それに、もちろん生活困窮とか、そんなことから始まりまして、子どものいじめや諸々の問題、その次に独居老人、お一人暮らしのお年寄りの見守り、その次に要支援者、ご病気やとか、いろんな不自由なことを申し入れがある方の、そういうお世話というか、気にかけることなどいろいろありまして、本当に計画の中にすべて入れちゃうかなと思って、どないしようかなと思っているんですけど、こういう計画立てていただくのは本当ありがたいので、これに従って、我々の活動も続けていきたいというふうに思っております。

これから第2期からまた第3期というような形になりますけど、わかりやすい内容で、我々が活動しやすいような形になっていただければ、民生委員としては大変ありがたいというふうに思っておりますので、よろしく願い申し上げます。以上です。

(川本議長)

ありがとうございます。本当に民生の皆さんがいないと、なかなか虐待も孤独死の件も、独居の方の見守りも機能しないので、非常に守備範囲はおっしゃる通り広がってきているだろうと思います。

特に、北区はマンション住民が9割ぐらいおられるってことで活動もなかなかしにくい状況かと思えます。

(辻委員)

すみません。よろしいでしょうか。この前、医師会さんの方から話がありまして、私はちょっと参加できなかったんですが、マンションにどうやって入り込むかというか、どんなふうにして道筋をつけるとか。というのは非常に個人情報や色々と難しい問題もありますし、本当に中になかなか入れないというか、そんなこともありますので、これからはもっともって考えていかなあかん、という話がでましたので、これからはますます増えていくと思いますので、考えていきたいというふうに思っております。

(川本議長)

はい。ありがとうございます。「マンションと自治会」という関係で、全国でも非常に難しい問題にはなっているとは思いますが、これだけ9割の方がマンション住まいということであると、これから益々、地域活動との壁というのは高くなっていくだろうというふうに思いますので、何かね、活動しやすいような仕組み、仕掛けというものを考えないといけないなというふうにも思います。

さて続いていかがでしょうか。あと2名ほど何かご意見いただければ嬉しいなと思うんですけども、お願いします。はい。

(岩岸委員)

いまの話で、こないだ医師会の会議がありまして、先生が中心なってやっておられたんですけども、今のそのマンションに対する独居老人の対応を医師会としても危惧しています、という話し合いがありまして、辻会長はちょっとネットができなくて、参加できなかった。

いやいや、ごめんなさい。医師会の方のネットがちょっと不都合がありまして、残念ながら参加できなかったんですよ。

そういう中で、私がマンションに対するそういう人の救援ですか、その時の入り方ですか、どういう方法があるかというのもその会議の中で申し上げたんです。

その会議には、消防署の方もおられて、消防署は緊急の時は入る術を持っておられるんです。

消防署に連絡するのが1つの方法で、それから、警察も術を持っておられるので、警察の方に連絡するのも1つの方法で、

それで問題はそこで誰がどうするかという、そういう仕組みで、いつ誰に何を言うか、何かのときに誰が一番「主」になるかというのはやっぱり、この福祉課になると思うんですよ。また、福祉課に言ってくると思うんですよ。

例えば、社協に言うならば、社協に言ってくる。民生委員に言うことであれば、その方が、役所に言うて、そういう仕組みを構築しておけば、「警察、消防と医師会とタッグを組んでやっていただくよりは、」とあって、今、私がお願いしているところなんですけども、その辺は逆に今度、役所に聞いてください。よろしく願いいたします。

(川本議長)

そうですね。はい。ありがとうございます。

最後、もし何か今のご見解で事務局としてあれば、後程お伺いしたいなというふうに思います。どうでしょうか。あと1名ほどいろいろとご意見いただきたいなというふうに思うんですけども。すみません、こちらから聞きたいなと思います。米田委員、いかがでしょうか。

(米田委員)

はい。今まで、ずっとマンションばかりの話ですけど、これは、やっぱりヒシヒシと感じている課題でして、特にタワーマンションではセキュリティがすごく高いというか、何重にもセキュリティがあってハードルが高い。もし仮に独居高齢の方が夜中に倒れた場合、かかりつけ医として、非常にゾッとするような時代なんです。それだけでもすごくどうなのか、不安ばかりなんですけれど、その辺のことを少しずつ、関係者の方と協議しながら対策を立てていければ、すぐに簡単に解決する問題ではないと思うんですけども、

いろいろな意見いただいて、解決したいなと思っているところです。

私個人的には、先ほどご挨拶申し上げましたけども、地域支援連絡会議の方にちょっと今ちょっと参加させていただいておまして、「つながり」という面で、いろいろ考えさせてもらったんですが、やはり特に福祉とか、何か孤独な方というのは、直接、我々医療者としては関わりがちょっと機会が乏しいというのがあります、こういう会議で現実を知らされて、「あっ、そういうことなんだな」と思い、一応会議には参加するんですが、これが会議を通じてどこまで我々にフィードバックされているのか、というふうに常々思っておりまして、その辺が今後、この会議を通じて、医療側にもオープンになっていけばなっていくふうに思っております。以上です。

(川本議長)

ありがとうございます。いや、ちょっとお聞きしたいんですけども、タワーマンションのセキュリティすごいですよね。そのなかで患者さんが倒れて、ご連絡はされるけど、その後には反応が薄いとかっていうようなケースがあった場合、どういうふうにこれまでご対応されていたんですか。

(米田委員)

幸い、ヘルパーさんとかケアマネさんとかに何とか連絡が繋がって、何とか事なき終えるケースが多いんですけど、中にはやっぱり警察にお願いしたりすることがあったりするんですけども。私個人的にはそこまでの経験がなくて、いまんとこ、何とか最終的にはどこかで繋がって、何かこう、あれですよ、SOSの連絡システムがあるんでしょうか。そんなことで、うまいこと入り込んだっていうケースがありますけども、やっぱりたまにたまっているか、絶対、確実性っていう意味ではすごく低いと思うんです。そういうのがあるので、もうちょっと何ていいますか、より確立の高い連絡の取り方というか、マンションへの入り方を考えていかないといけないと思います。

どうしてもセキュリティが高いところは、住民の意見もすごくあると思うので、なかなかうまくいかないと思うんですけども、やっぱり管理組合といえますか、そこら辺でちょっともうちょっと我々の意見を聞いていただいて、何かこう、マンションの中で、なんかそういう取り組みもちょっとしていただけたらなというふうに思っております。

(川本議長)

はい。ありがとうございます。すごい重要なポイントで、北区ならではというか、都市圏ではこういうような問題というのはお医者さん側にも色々と抱えられているんだなんていうことを実感しました。本当に、これは、何かどこかのマンションでモデルケースができたら他も横に横展開していけるような話にもなってくるかなと思いますので、今は「ケースバイケースで運よく」ということが、本当に印象的でございますけれども。何かどこか

で仕組み化していくっていうことも重要なポイントだなというふうに思いました。すみません。平尾委員は、これまでずっと関わられていたということで、成果に対して何かご意見等あればと思います。

(平尾委員)

はい。第2期計画に移る頃から関わりを持たせていただいて、ただやっぱり、この第2期から3期にかけてやっぱり一番大きなアクシデントは「コロナ」だったというのは、非常に大きな要因としてあって、「さあ、これからや」というところで第2期計画を立ててスタートしようと思った矢先に、もうそれが全く許されない状況になってしまって、その中でも、やはり社協さんとも連携しながら、今、地域でできることは一体何なのかというところを模索しながらやってきた、この5年間の大半だったのかなというところで見ていると、やはり都市部の特有というか、北区特有といった方がいいのかもしれないですけど、本当の地域性ですよ。地域支援連絡会議の方でもやはり、地域包括だったり医師会の先生方とも一緒に、ワークショップしていただいて、やっぱりそういう意見を重ねていく中で、今、自分たちにできることを、これからやろうとすること、しなきゃいけないことが一体何なのかっていうことを、非常に危機迫った中で、皆さんにご意見を出していただいて、計画に対する評価という形も含めて、やってきた部分はあるのかなというふうに思っています。

ただ、やっぱりマンションと、これも地域支援連絡会議の意見でも出ていたんですが、やっぱりそういう地域福祉とか地域活動とって、関わってくれる人は9割ではなくて1割の方の人たちが主に取り組みをしていると。それをもって、こうなんか「地域」って言い切っていいのかなみたいなことを、活動されてる方々も、やっぱり肌を感じておられるというのはひしと感じてきた中で、やはり都市部特有の地域福祉のあり方って、私もこんな大きな都市で関わりを持たしてもらうことも今までなかったもので、私も悩みながらも、皆さんと一緒に悩みながら、もがきながら、ただ、そういった苦しい時期をみんなで協力し合って、やってきたっていうところは、力は貯まっているのかなと思います。

それをどうやってこう発揮していくのか、さっき辻委員もおっしゃっていたみたいに、やっぱりこの計画が、やっぱり自分たちの活動に反映しやすい、取り組みに乗っかっていきやすいというようなところは、皆さんが多分望んでいるというか、期待しているところではあるのかなと思いますので、今までのことを踏まえながら、アフターコロナといわれる中で、どうやってもう1回、その地域を、見直して作り直していくというところで、今回の第3期計画は非常に大事になってくるんじゃないのかなというふうに思っていました。ただ、本当に地域の方々、地域包括の方々、社協の方々や医師会の方々、それぞれの立場で、本当にもがいて、どうしよう、どうしようといいいながら前に進もうとしたエネルギーというのは連絡会議の方でも非常に感じているので、それをうまく計画に反映できるような形にしていきたいなというふうに思います。というところが、評価とか課題とか方向

性という少しあれかもしれないんですけど、そういったことを踏まえて、この第3期計画をより良いものにしていきたいなというふうには思っています。はい。以上です。

(川本議長)

はい。ありがとうございます。事務局の方いかがでしょうか。マンション関連のことを含めて、今ご意見いただいたことに対して何かご回答等あればと思うんですが。

(事務局)

はい。平尾先生の方からまとめてお答えいただいたような形になっていますけれども、いろんなご意見をいただきましてありがとうございます。

辻委員からは、わかりやすく、活動しやすい活動ができるようにそういう仕組みであったりとか、仕掛けを作って欲しいということのご意見をいただいたり、岩岸委員からは、地域でもいろいろ考えて取り組みを進めているので、福祉課の方でも構築できるような形で考えて欲しいというご意見をいただきました。

米田委員は、いろんな会議や地域支援連絡会議とかにもご参加いただいて、その情報を医療側へもフィードバックして、情報共有ができていない部分もあるということで、少し課題として今見えてきましたので、今後、計画を作るにあたって、いただきましたご意見を反映して、より良いものを作りたいと思いますので、これからもご支援、ご協力よろしく願いいたします。

(事務局)

すみません、福祉課長の中野です。ちょっと事務局で補足させていただきたいと思えます。先ほど牧島の方から各委員のご意見の内容を総括して、まさにその通りかなと思えます。

辻委員は、民生児童委員のお立場ということで、この計画にありますような非常に困難を抱えられている区民の方への日頃からの見守りということ、それから、まさにすべての課題がこの計画に、ということをおっしゃっておられて、すごく課題認識を、民生児童委員としても持っていたているのは我々としても頭の下がる思いです。

なおかつ、今、北区の民生委員児童委員協議会では、普段からの民生委員の本来の活動に加えて、独自の取り組みとして、防災の取り組みとSDGsの取り組みということで、子どもたちの見守りということで、副会長を部会長に据えて、取り組みを検討いただいているということで、まさにそれが地域の中で、自主的に民生委員児童委員の皆様で取り組みをいただいているということ、これがこの第2期計画の中での誇るべき成果であるかなあと思っております。

それから岩岸委員から地域の代表ということで、特に今回ご意見いただいたのは、マンションにお住まいの高齢者とか、独居の方についての見守りというようなことを、地域

の代表ということで医師会に向けて、ご意見を言っていたいて、それを受けて、米田委員からの、どうすべきかというようなことを、課題認識としていただいたかなあと思っています。岩岸委員もおっしゃったように今、そういった私たちのところにも、安否がちょっとよくわからない、高齢者の方についてのお問い合わせとかがあるんですけど、そういったときには、私たちの職員であるとか、社会福祉協議会の見守り相談室の方とかと一緒に現地に行くんですけども、ドアをたたいても出てこないとなると、いよいよ警察、消防とかに連絡をして、というようなことにもなってしまうし、お医者さんのことがいるというのであれば、お医者さんに連絡することになるのですが、そこでやっば出てくるのは、誰かの許可がないと入れませんとか、身内の方にちょっと連絡を、というようなところがいつも壁になってくるのかなと感じております。

そういったときに、岩岸会長がおっしゃったような地域からの要請であるとか、それから米田委員がおっしゃったように地域支援連絡会議で、いろんな委員の方が会議にも参加をいただいております。社会福祉協議会や私たち役所もそうですし、民生委員児童委員、或いは障がい者も含めた民間の事業所の方とか、それから私たちが事務局を持っている、例えば高齢者、障がい者の虐待防止の協議会では、警察・消防の方にもご参加をいただいて、普段から顔が見える関係を築きながらお願いをして、やっばこう現場に行ったときにそういう地域の方からのお声であるとか、普段からそういったとこで顔を知っていて、課題を共有しているってことは非常に大きいので、やはりそれは、この間の、この地域福祉計画の中に基づいて、主催しております地域支援連絡会議であるとか、そういったことの成果かなあと思っておりますので、地域振興の方から、そういったことを医師会の会議で少し発言しておくとか。

或いは医師会の方からも、そういうことを発言しておこうとか、民生委員児童委員の方からもとか、この他にも社会福祉協議会からは事務局長もいらっしやっていますし、副議長は会長でもいらっしやいますし、施設の代表は長谷川委員もいらっしやいますので、そういったことをここに集まって、課題を共有していくということが、非常に大きいことだと思っておりますので、第3期計画に向けても、こういう計画の中で、文言だけを作るのではなく、むしろそういう地域支援連絡会議の取り組みであるとか、そういう地域での人との繋がりにていうところは、これは計画を運営していく中で、是非ともその血となり肉となるように、計画の内容づくりとともに、引き続き、引き継いでいきたいなあと、ちょっとそんなふうに、担当課長としては思っております。ちょっと補足でございますけれども、引き続きご協力よろしくお願ひいたします。

(川本議長)

はい、ありがとうございます。今、おっしゃっていた本当に平時の繋がりというのが、どれだけ広がるか、質が高まるか、というのが有事の際非常に重要だというのは、僕も能登の方に何度も入らしていただいている立場からすると、ほんまに、事前の準備って

いうものがどれだけ大事か、というところが目に見えてわかる。

今回、防災の面では能登は非常に遅れていた部分がありましたので、非常に現状もかなり厳しい状況が続いているというところもありますので、本当に防災の観点からいっても、日頃のつき合いというか、行動をどう広げるのか、それを都市部として、どういふふうな方法でやっていくのかっていうのは、常々考えないといけないポイントだなというふうに思います。はい。ということで続いての議題に進行して参りたいというふうに思います。

議題 3 に移ります。「第3期北区地域福祉計画策定の進捗について」ということで、事務局からご説明お願いいたします。

(事務局)

はい。では別紙の 3 に基づきまして、福祉課長中野より、簡単にスケジュールの、ご説明をさせていただきたいと思います。お手元の別紙3の資料、或いは前のスライドの方をご覧くださいと思います。

1 枚めくっていただきまして、第2期計画の柱立てについては、もうこの間、縷々(るる)ご説明をして、今日の冒頭のところでもご説明をしたということで、改めてこれも確認でございます。

第2期計画の基本理念、「人と人の繋がりと支えのまち北区」という大きな基本理念のもとに、6つの視点がありまして、もともと第2期計画が策定された当時は5つの視点であったのですが、コロナを経て、中間時点で改めてこの計画を見直す、或いはこの推進会議でご意見をいただく中で1つ、「気にかける地域づくり」というお互いに、コロナ禍の中で、お隣り、ご近所との繋がりというのが希薄になる中で、やはりこれが次の時代のキーワードになるかなということで、第2期計画の途中でありますけれども、この視点を新たな視点として盛り込ませていただいております。そういった視点のもとで、3つの柱を立てまして、それに基づいて具体的な計画を進めてきたというところがございます。

地域での支え合い、いわゆる地域福祉、地域での見守りといった仕組みづくりという支援と、それと相談支援ということで、どんな相談どんなお困りごとでも漏らさず、汲み取ってきめ細かく対応していく、相談支援の充実ということと、福祉についての広い学び、それは私たちの職員研修というようなことから、地域の中で、福祉とはどういうものかとか、福祉について関心を持っていただいて学んでいただく経験していただく。そしてその中から、担い手をどんどん増やしていくというところは、この上の地域で繋がり合う、支え合う活動支援というものにも繋がってこようかなと思います。

第3期計画につきましても、この6つの視点と、3つの柱というのは、これはこの間、第1期計画、第2計画を続けてくる中で、北区が辿り着いた財産でもあろうかと思っておりますので、事務局としては、この柱を大事にしながら、この考え方を引き続き第3期計画の中

に引き継ぎながら、具体的な、今日的な、課題も盛り込みながら策定をしていきたいと思いをします。

その中には、6つの視点に「気にかける地域づくり」からさらに1歩進んで「気かけあう地域づくり」であるとか、そういうようなところを盛り込みながら、少し事務局の方です、今後、地域からもご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。

次に、簡単にスケジュールの方ですけれども、すでに令和6年4月が始まりまして、今はもう6月を迎えようかというところでございまして、これから第2期計画の検証を、今日もこれが検証になっているわけですけれども、同時並行に進めながら、あわせて第3期計画の作成案を進めようと考えております。その中には、今日の推進会議でありますとか、庁内会議の中で策定会議、区役所と、これには川本議長にもご参加いただいて、策定会議等も進めながら、原案づくりを進めていきたいと思っております。

併せまして、民生委員児童委員の皆様でありますとか、地域の中で活動いただいております社会福祉協議会の関係の方とかには、少し何て言うんでしょう、紙面ヒアリング的な簡単なアンケートというような形で、個人的な課題について、或いは普段の活動の中で感じておられるようなことのご意見を集約させていただいて、そういったことをこの6月、7月、8月と、同時並行で進めさせていただいて、原案の策定をこの10月には作って参りたいと考えております。

この会議で、またその原案を諮らせていただきまして、12月の年内には、パブリックコメントということで、これはもうこの時点で広く、原案を公表して、区民の方にご意見、コメントをいただくということを行って、それで反映すべきところを反映する。或いは計画を進めていくにあたって留意するということはしたということ踏まえて、今年度3月には公表して、各地域、区民の皆様にも広く周知を図って、令和7年4月から計画自身を第3期の計画、5ヵ年計画になりますけれども、進めて参りたいと思っております。

スケジュール的にはこういったことになっております。この北区の地域福祉計画では、先ほど申し上げたように、3つの柱で作られておりますけれども、計画によりましては、例えば、高齢者に対する課題であるとか、障がい者に対する課題であるとかというふうに、対象の方とか、そういった方の対象別に、課題を抽出してその対策を計画するというところもありますが、北区の場合はもう第1期計画、第2期計画のときから、そういう分類別とか種別ではなくって、こういった横串を刺すような形で地域での仕組みづくりと、相談支援体制と福祉の学び活動づくりというような大きなくりでやっているというのが北区の特徴かなと思っておりますので、引き続き、こういったことを大切にしながら、第3期計画に向けて作業を進めて参りたいと思っております。

また折に触れて、ご意見、ご報告させていただきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願ひしたいと思っております。私は簡単ですけれども第3期計画の方向性とスケジュールについてご説明をさせていただきました。ご審議よろしくお願ひいたします。

(川本議長)

はい。ご説明いただきましてありがとうございます。只今、進捗といいたしめようか、どういふよふなことを柱にして、どういふスケジュールで進めていくのかといふご説明をいただきました。かなり、優等生な計画スケジュールやなといふふうにつまえています。もう少しいふならば、結構タイトなスケジュールになつてきていますので、ここでせつかくですので、皆様にひと言ずつ、ご意見等をいただきたいと思つています。地域福祉計画に何を載せるべきかといふよりは、普段の活動からこれまでを振り返つていただきつつ、これからこのことをしっかりと議論していかないといけないんじゃないか、みたいなどころを含め、ざつくりとしてでも結構ですので、いろいろとご意見いただければといふふうにつまえています。お1人ずつまわしていきたくと思つていますけれども、渡島委員からいかがでしょうか。

(渡島委員)

はい。私の豊仁地域では、「ふれあい喫茶」や「脳活性化」「百歳体操」などが、やっぱりそふい人と人との繋がり合える事業となつており、女性の人がかられることが多いです。そふい地域での繋がりは大切だと思つていて、だからもっともっと女性同士で話し合つて、何かできることはないかなといふ考えはあるのですが、いろいろと民生委員の方も活動されているので、すごくそれは安心かなあと思つております。

(川本議長)

ありがとうございます。女性会や民生委員の人、いつもこのなんか同じ人ばかりに結構負担がいつて、あれもこれもそれもいつてくると、このよふな委員会の場面でも同じ人で、まわしていかないといけないといふよふなところも大変な問題なのかなと思つます。

担い手の話とかも十分議論しないといけないといふ意見をいただきました。ありがとうございます。ついで、岡田委員にお願いしたいのですがいいでしょうか。

(岡田委員)

はい。岡田です。私は歯科医師会に所属しているんですけども、北区といふ場所はやっぱり非常に難しい場所なのかなあと思つています。どういふことかといひますと、地区、地区によつて非常に町の状態が違ふと、梅田であれば本当にその大都会の真ん中で、人々がすれ違つているだけで、場所も非常に大きいですし、逆にこの辺りの天満、天六になると、下町の、いまだに地に根づいた人たちが活動しているよふな場所があり、このよふなものを一括りでやつていけるのかなあといふ気はしています。先ほど来から、マンション問題がいわれておりますけれども、マンションでも都心部にあるものと、ちよつと地域に根づいたよふな場所ももちろんあるので、そこら辺の区割りが非常に難しいかなあ

というふうに思います。

だからといって、それをケースバイケースで分けていくと、もうとんでもない計画になってしまうと思うので、そこら辺が非常に難しいのかなあと、ちょっと心配しております。以上です。

(川本議長)

ありがとうございます。ごもつともですね。僕は下町育ちで豊崎本庄のあとは天人(天神橋 8 丁目)にずっと住んでおりましたので、またそれでも全然エリア制が違って、暮らし方も大きく変わるなというふうに思います。あれですよ、小地域福祉計画が 2 地区ぐらいでやっているんですけど。

(事務局)

はい。第2期の小地域福祉活動計画を作ったのが 2 地域で、小地域福祉活動計画自体を作っている地域が 19 地域のうち 9 地域あります。

(川本議長)

9 地域までってことで、小地域っていうのは小学校区で一単位に捉えている。でも小学校区の中でも、路地が変わると全然雰囲気が変わるということもありますけれども、この北区全域で捉えるというよりは、せめて小学校区レベルで、それぞれの実情に応じてやっていかないといけないんじゃないかということもございますので、今おっしゃる通りで小地域の単位で、もっともっと深めていくということ、検討しないといけないというふうにも思いました。ありがとうございます。続きまして坂東委員いかがでしょうか。

(坂東委員)

すみません、坂東です。よろしくお願いします。

皆さんに比べたらまだ私は北区でお世話になってからまだ 30 年ぐらいで浅いほうかなという感じですけども、マンション問題とか、今、岡田先生がおっしゃったような北区の特性はその通りだと思って聞いておりました。

私たちが組合、薬剤師会という会で動いているんですけども、昨今、地域包括ケアシステムというものが策定されておりまして、その中に診療所・歯科医院・薬局ということも含まれていまして、1 人の方を地域で診るという包括ケアシステムで、これからもどんどん策定されて完成させていこうという真っ只中なんですけど、その中に、やっぱりこの薬局としまして、最近、在宅医療で訪問させていただいたりとか、もうどんどん増えてきているところで、米田先生にもお世話になったりとかしているところであります。

それで何ていいですか、地域の繋がり、連絡というもので、最近、時間外で、日中ならまだ薬局さんと患者さんとコンタクトを取りやすいと思うんですけども、やっぱりその

他、休日とか夜間の問題、そういうのもちょっと話題に挙がってしまっていて、先ほどいいました、地域包括ケアシステムを完成させるためにはそこにも、ちょっともう少し手厚くということの意見があります。

それを踏まえまして、厚労省からの方も、その地域に対応できる時間の周知を徹底するようにということと言われておりまして、私の北区薬剤師会では、今、各所属の薬局さんに、休日・夜間の対応状況を、今、お尋ねしているところで、明日、明後日の6月1日に公表するということになっております。

私のホームページ見ていただいたら、各施設のそういう時間的なものもアップされていると思います。この辺、行政側がどこまで資料持たれているのか、ちょっとわからないんですけど、もし、そういう活動であったり、活用をさせていただけるのであれば6月1日以降、きっちりと、もう出ていると思います。これは大阪市北区の話で、薬剤師会に入られてないところもあります。その辺はちょっとどういう状況になるか、お願いされて一緒に載せてくださいという我々のホームページに載せてくださいというところであれば、載せてはいるんですけども、こちらからは、その非会員さんのところには別に声かけはしていないので漏れはあると思います。会に所属しているところは全部載っておりますので、またそれも参考していただけたらと思います。

どうしても北区以外の薬局を関わられている方や関わっている薬局など、いろいろあると思いますが、そういう方に関しては、大阪市北区のもう1つ上の方の大阪府の方の薬剤師会の方のところにも休日夜間に対応できるというところのリストが、これも6月1日から、もう多分ちょっと先行してアップされているとは思いますが、もしよかったですら参考にさせていただいて、もしそういう方がいらっしゃったら、つなげていただけたらいいんじゃないかなと思って聞いておりました。意見じゃなくて連絡事項になってしまいましたが、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

(川本議長)

はい。ありがとうございます。非常に有益な情報をいただけたかなと思います。ちょっと僕がわかっていないので教えて欲しいんですけども、例えば薬局の方で在宅医療の患者に対して、薬剤師さんが直接訪問されているような薬局さんというのは結構数が多いという認識でいいでしょうか。

(坂東委員)

ほぼ依頼が来れば、行くことは可能だと思います。ただ、あとマンパワーとか、その辺は少し各施設によって違うと思いますけれども、何とかやりくりしてちょっと時間がズレるけども行っているとか、私のところも人が少ないので、ある程度、時間を見つけて、少し後の時間で行ったりであったり、申し訳ないんですけど終了してから遅い時間に出向いたりとかはしています。その辺はケアマネさんとか、訪問看護師の方とかと連絡は取り合って、今日だったら何時頃に行けますとか、いうふうなことはやっています。

(川本議長)

なんか非常に心強いですね。

(坂東委員)

さっき言いましたホームページにも、この在宅対応というのが出ていると思うので、どうしても駄目なところはそれはバツ(×)になっていると思います。はい。また活用していただきたいと思います。

(川本議長)

ありがとうございます。在宅にいる高齢者、独居の方って、どなたでもいいから来て欲しいみたいなどころがあるので。

(坂東委員)

そうですね。ことらとしても行ったら、なんかいろいろなものは、見させていただいて勉強させていただいて、たくさん残薬があるとか、いろいろ薬の管理であったり、いろんなものをさせていただくことはあります。

(川本議長)

ありがとうございます。また僕もちよっと見させていただきたいというふうに思います。ありがとうございます。続きまして長谷川委員いかがでしょうか。お願いいたします。

(長谷川委員)

私は、基本理念の「人と人のつながりとか、支え合いのまち北区」というのが単に標語、プロパガンダにならへんように祈る気持ちです。

例えば、今の時代は保育所でピアノを弾いたら「うるさい」と電話がかかってきます。子どもが泣いたら「虐待か」、だから窓を閉めてやってます。もう表では遊ばません。

老人ホームで職員が話すると、これから暑くなると窓を開けてますわね。老人さんは耳が遠いですよ、大概の方は。

おっきな声でしゃべりますねん、職員は。大阪弁で「あほ何言うてんの」って、普通の会話ですやん。「あほ、何言うてねん」って、職員がいうてますよ、おっきな声で。そして、役所に通報。そしたら私どものところに調査が来ます。これはちよっとおかしいん違うと思います。

先ほどから、孤独死の話がよく出てましたけど、私もお寺、お寺が主ですけど、孤独死になるのは何もお年寄りだけじゃないです。うん。お年寄りは週 1 回でも来てもらいます。私も住職になってからでも、何年かに 1 人は 1 人ずつは亡くなっています。

例を挙げると、お元気な独身で住んでいて、ほとんどお付き合いのない人で、ご兄弟が電話したら出へんからといって、ほっといた。次、そのマンションから電話かかってきて、臭いするから、開けてよろしいかっちゅうて、やっぱりもう骨だけになってはった。そういう電話が何本もあって、一番古い仏さんは、この5月に27回忌しました。それも、誰もお付き合いがなく、親戚は北海道しかいてないけど、年忌には来りました。この方は早く見つかったけど、なんでいうのは、週に1回親戚に電話をちゃんとしてありますねん。電話して受話器持ったまま息が止まったみたいで、次の週に電話が架かってこないから、娘さんですけど家に行ってみたら、受話器を持ったまま亡くなっていた。おそらく家族に電話してそのまま亡くなっていた、というようなことで、孤独死というのは何もお年寄りだけではなく、坂東先生がおっしゃったように週に1回でも行ってもうたらすごくラッキー。もう週に1回どころか、月に1回どころか、何ヶ月、何年も経ってから発見されるんですわ。

特にマンションが多いというおっしゃいますけど、マンションも老人ホームのように、何かあったら入るような契約にしとかんとあかん。誰が住んでるやわかりませんよ。

家族で住んでるか、1人か、何もわからへん。でも、今やマンションどころか、公営の、私どもの近所の団地でも、「あその人、来いへんな」と井戸端会議してたら、それが「悪口を言うてる」って、逆に訴えが来ますねん。それって、井戸端会議でそういう心配をしてもいかんねん。というふうな風潮になっています。だから、私はマンションいうのは、そういうふうな怖い事情を抱えてしまったなと思っています。入られるときは、それはプライベートな空間が欲しい、というので入りはったんやけど、年をとって1人になったときには、えらいことになったな。そこから先どうやって、というのを考えはらんと、変わらへんと思うから往生しはると思います。そのマンションに対する考え方というのは、それこそ行政も含めて、マンション対策の何か作っていただかんと、なんぼでも孤独死は増えます。絶対に減ることないです。と、私は予想しております。以上です。

(川本議長)

ありがとうございます。マンションの自治会というかですね、隣近所のつき合い方というかですね、これ本当に大きなテーマになって、この北区の地域福祉計画の中では、大きな議題になってくるんじゃないかなと、これまでもずっと議論されていたと思いますので、今期どういうふうにしてそれを考えていくのかというのは再度整理しないといけないと思います。

これ1つ確認ですけれども、結構、今、独居の方はますます増えて、単身世帯の数は増えていくわけで、お1人で自宅で亡くなられるというのは、めちゃくちゃ幸せなことだと思います。これだから、孤独にというのとは1人で亡くなられるということだというふうにつまえる場合、孤独死自体が問題というよりはその後の発見されるまでの期間がどれぐらいかということが大きくて、大体これは、政策的に定義をすると、大体3日から1週間

以内の間に見つかる場合はまだ孤独死。ただそれ以上経過して見つけれられる場合は、孤立死という表現が結構使われる。孤立というのは、人間関係がない状態で、亡くなられて発見までにすごく時間を要したということですね。なので、1人でご自宅で亡くなられるというのは、結構、理想的な終末期だとしても、見つけれられないというそんな寂しさを、いま長谷川委員は、まさにそういうことをご指摘いただいた。だから、週1回でも、誰かが訪問してくれてつながりがあるというような状態、社会関係がその生前の中でどうやって最後まで途切れずあるのかということが非常に大きな問題かなと思います。おっしゃっているようにやっぱマンション独特の、という課題から、ここを整理して、また、どういうことが検討できるかを議論していきたいなというふうに思いました。ありがとうございます。続きまして松本委員いかがでしょうか。

(松本委員)

はい。すみません。私が、今、お話をお聞きしながら考えていたのは、つい先日ですが、北区内で、車の中で生活している人がいてはります、大丈夫ですかね、というご連絡があって、区役所や社協の職員が現在、関わらせていただいているんですけど、こういうことって、地域の人たちがやっぱり気づく力とか、どこに連絡したらいいのかということが非常にわかってらっしゃる方が増えてきているのも現実であり、先ほど長谷川先生がおっしゃった周りも知らん顔で1週間経ってきて、臭いがするから見に行っただという気づく力というのを結局、高めていくことがすごく専門職もちろん必要だし、地域の人達にも、ちょっとその視点を、より多くの方々に、役員さんとか普段関わってらっしゃる方はもう抜群なんですけども、そういうところに気づく力が広がっていけばいいなと思ったということと、先ほど中野課長のご説明の中に、計画の原案づくりの中でも庁内会議をしていくんだということをおっしゃっていただいて、前回のこの会議でもお話したんですけど、もちろん地域の方々と一緒に計画を作っていく、専門職の意見も入れていく、だから、いつも区役所の人達の声というのが、なかなか入りにくいんで、この大きな館(やかた)の中でも福祉部門の方々、職員の方々というのもすごい多くおられて、やっぱり非常に厳しい、なんかもう難しい人、私たちの社協でも、区役所でも行ったり来たりしはるような人がいっぱい増えていて、窓口でも、しんどい思いもしてはるし、逆に一番こう、地域のことに接してらっしゃる職員の方々の意見を何かしらうまいこと計画の中に盛り込んでいけないかなというのは、私はちょっと常々思っています。はい。以上です。

(川本議長)

はい。ありがとうございます。結構新しい視点だというふうに思います。区の中でそういうような生活困窮含め、何かしら相談に来られる方に対応している職員やワーカーさんの声を聞くという機会はなかなか無いということですよ。そういう声も含めてこの地域

福祉計画をどういうふうにする、いわゆる支える側の声もしっかりと反映させていくということも重要じゃないかというようなご指摘もいただきました。あとは本当に地域の気づく力を養うということですね。気づく力と伝える方法の明確化。そういう人たちが結構増えてるよというお話だったと思いますので、まさに地域福祉計画の住民活動の、最も重要な部分、「気づき」・「伝える」ということができれば、何とか救える命もあるし、孤立死を防ぐパワーにもなっていくかなというふうに思いますので、いろいろとそういう点は、まさに地域福祉計画そのものの重要な事項だなというふうに思ってお聞きしておりましたありがとうございます。そうしましたら、再度で申し訳ないですけど辻委員いかがでしょうか。

(辻委員)

民生委員のコマーシャルで申し訳ないですけど、民生委員ではこういう図(手元の資料)を作っております。まず、先ほど中野課長からありましたけれども、平素の民生委員活動、それに災害対策活動、それとSDGsの活動、これをこの3年間の活動の主としていこうとしております。基本の活動として、「気づく、つなぐ、見守る、伝える、備える、知識力、共有する」これを民生委員の皆さんの頭に入れておいていただいて活動すると、そういうふうなことを言うているんですけども、「おっ、前の画面に図が出てきた。素晴らしい。」

(川本議長)

いや、これすごい。仕込みまで。

(辻委員)

こういうふうな民生委員としての活動の基本、を作っております。どれだけ、各委員さんに伝わっているかというのはちょっとまだ不安ですけども、何か事あるごとにこの形を作っていくたいというふうに思っておりますので、こんなこともちょっと計画の中にも入れていただいたらありがたいと思います。民生委員の標語も私が作ったんですけどね。「気軽に話せる民生委員、気軽に相談できる民生委員、信頼できる民生委員がそばにいる」ということを知っておいて欲しいと。これは一般の方へのアピールですけど、基本にしているというところです。

それと先ほどの孤独死はもう仕方がないなと思っています、正直なところ。けつまずいた人が、我々のところに来るんで、けつまずいたかどうかわかれへん。ワァーッと後でしまったなと思うんやけどもどうしようもない。絶えず、孤独死に遇った民生委員は、やっぱり心の中にずっとあるんやね。その辺はもう仕方がないというふうに思え、というふうに伝えていきますけど。そんなとこですね。すみません。

(川本議長)

ありがとうございます。その孤独死というのは、結構遅れて、だいぶ経ってから発見されたケースでしょうか。

(辻委員)

だいぶ経ってからということもありました。それこそ、消防が入って、そしたら居てはらへん、どっか行ったんじゃないか、というときもありました。それは個人の家ですけどね。もう、しゃあないから上から入れやと警察もいっし、警察と消防が中に入って、居てはらへんかったから、なんか親戚のところに行っってはって、そういうようなこともあったんです。それをほっとくと、やっぱり、中でどうなってるかわからへんからというなことですけど。本当に、目の前に、そんな事件が転がってるというような感じが多々あるんで、この中にさっきありました「気づく」。「まず気づく」。あの人おれへんというのが先ほどお話が出ましたけど、あそこの顔見いへんやんかとか、そんなふうな気づきから始まって、こういうような活動があるということです。以上。

(川本議長)

はい。ありがとうございます。

この7つの図は、辻委員が整理されて作られたのですか。

(辻委員)

その辺から引っ張り出してきて。

(川本議長)

これ、じゃあ計画に使わせていただいてもいいですか。なんか、これはめっちゃ使いやすそうと思って、素晴らしいなと思ってます。

そして、僕がびっくりしたのはSDGsがこんなところまで浸透してるんですね。

(辻委員)

元々は紙の削減を考えていましたが、会議のときにこのぐらいの紙が出るんですよ。持って帰って役に立つんかいなと思ってもそのままほったらかしになるので、もっと紙を減らせ、というようなこと。持って帰った私はスキャナーで写したあとにほってますけどね。

そんなことから始まって、SDGsの担当チームがいろいろ話をしたら、すべての子どもに、教育とか、そういうような方面に動きましたんで、今そういうふうな方向でSDGsをどうないしよかいのを動かしてます。まだ結果出てませんけどね。

(川本議長)

いや面白いですね。SDGsをうまく使って紙を減らそうとか、何か皆さんわかりやすくなってきているので、それを使ってってことですね。誰からかSDGsの活動をやれとかと言われているわけではなくてってことですね。それはよかったですね。なんか変にバッチを買わされるのはないですか。大丈夫ですか。

(辻委員)

紙を減らせから始まったんですよ。実は、委員長さんにみんなタブレットを配ってくれていうて。それはなかなか達成できる目標ではないんですけど、そういうとこで、森林のどうのこうのじゃないけど、こっだけ紙を使ってたら、なんか区長が一声言いはったけど、裏面を使っていない紙が多いじゃないかと、両面使えとか、そんなことが役所の方ではあると思いますけど本当に無駄やと思います。

(川本議長)

すごいですね、交渉の術としてSDGsをうまく使って、すごい上手いだと思います。ちょっといろいろこれはまた後程、僕も見させていただきたいと思います。ありがとうございました。続きまして岩岸委員、またお願いいたします。

(岩岸委員)

先ほどのマンションの話なんですけども、防災が、いま一番効くと思うんですよ、何かにつけて。北区で実はマンションの防災訓練をやったんですよ。これがものすごくよかったですね。これを各地域、地域で進めていけば、おのずからマンションの方も出てきて、何でせないかんか。そういうと、どうしたらいいかというのを勉強するし、お宅はここに住んでいたという話も出てくるかもしれないし。極端な話、犬猫を防災のときにどうするかっていうのもあったんですよ。それは常日頃から、そういうカゴに入れる練習をしてないと、いざというときに入らんのですよね、犬猫は。だから日頃からそういう対策として、そのカゴに入れることもやってくれっていうのも、その防災訓練のやったわけですね。それからやっぱり1つの、自分の子どもとして扱う人がおるんで、そういう観点からも良かったんじゃないか、というのが1つ。

それと、やはりマンションでも大型はいいんですけども、少ない5階建て6階建ての小さいマンションで孤独死をされたケースがあったんです。これがね、地主さんがものすごい悩んでいます。年配の人をもう入れたくないって言っています。私の友達のマンションでたまたま、この間まで元気やってけど、この頃、来ないねんといって、ちょっと見に行くわと行ったら、夏の最中で冷房をつけずに、当然、あんまりここでしゃべることじゃないかわかんないですが。もう後始末は警察がしてくれたんですが、ところが家具とかそんなの始末はこれはマンションの持ち主が負担するんですよ。これが相当金

がかかると。ならば、もうこれからは入れたくはないという。そうすると、そういう方が今度は住むとこなくなるんですよね。その辺のことも今後、役所として、その対策といいますか、その辺をどうするかいうのも考えていかないかんように思いますけどね。気の毒なんですけども。

先生がいわれたように、それも幸せかなというのものもあるかわかりませんが、やっぱり見つけられないようなことはやっぱり寂しいと思うんでね。たまたま家主さんが見つけたんで、よかったんですけど夏の暑いときですから、もうほとんど変な形になってましたんで。そういう形でやっぱり、マンションについては、そういう訓練をおこなっていくのが良いかなと思います。今はもう能登半島のこともありますから、何かにつけて今は訓練がものすごく良いと思います。言葉がちょっと適切でないと思うんですけど、匂じゃないかと。今やるべきときだと思いますんで、各地域でぜひマンションの訓練をやって欲しいなというのは地域としては思っております。はい。よろしくお願ひします。以上でございます。

(川本議長)

はい。ありがとうございます。本当にタワーマンションが被災して、エレベーターがもし止まったとなった場合、どうしはるんでしょねというのは、これ結構、エレベーターの修理・修繕で止まった場合、会社を休みますみたいな人が大量に出てきて、東京の方ではそれで下水もアカンようになったマンションがあって、トイレ問題で、非常に大きな問題だった。

例えばタワーマンションが被災して下水が止まるのと、本当に能登はすべて下水が駄目になって上水も出ない。仮設トイレというのをやってるけど基本的に戸建ての家ばかりなので何ヶ所か設置してということで対応はできるんだけど。マンション 1 棟分がもしそうなった場合に、まず降りてこれないし、日常的に自宅避難してトイレ行くまでに地上階まで降りてこないといけないということを想定すると、本当にこの防災をキーワードに皆さん、ちょっと意識しましょうよといって、1 歩外の地域との関わりを接点として持っていていただくと、これは本当に今が旬だと思いますので、今、まさに能登のことがあったので、ぜひこういうようなキッカケをですよね、より一層関わりを作っていっていただければ嬉しいなと思います。

最近、流行っているのがですね、流行ってるという言い方もおかしいなとは思いますが、防災、減災とかということをするんですけども、「事前復興まちづくり計画」というのを作る地域が多いです。事前ということで、事前に復興のことを考えながらまちづくり計画を作りましょうということで、これをあらかじめやっておきますとですね、被災した場合、どれぐらいでどういうふうに社会経済を復興させていくのかを住民さんと一緒に考えてやっていくんだということなんですね。これ南海トラフの影響の強いエリアは、結構、積極的に計画を立ててきてはるんですけども、内容的には地域福祉計画と、非常に類似しているということなんですね。

なので、マンションの方々もこういうようなこと、防災とかをキッカケに入っただきながら、そこをちょっと誘い水にして、普段の平時の活動にもご参加いただけるような戦略を考えていけたら嬉しいなと思いました。はい。ありがとうございます。あっ、どうぞ。

(岩岸委員)

それとね、能登の様子を見ていると、災害に対するいろんな用具とかできていますよね。

例えば泥水に、ある紙を入れると、勝手に水を吸うんです。泥水を吸うんですよ。そこで、もうすでに殺菌されているんですよ。それをストローで吸えるというのも開発されていますし、やはり災害のときに、自分らでその泥水を綺麗にする術も知らなアカンし。あと、墨汁があるじゃないですか、それを凝固剤みたいなので固めたら綺麗な水になるんですよ。墨汁から墨だけが沈むんですよ。その墨を取り除いたら、それを飲めるわけですね。だから、そういう術もやっぱりそういう災害訓練のときに、やったらいいかなというの1つありますけどね。

(川本議長)

そうですね。グッズや商品もやし、備蓄でこれをどう使っていくかも一緒に考えられると、特に子育て世代は必死になりますから、結構こうやって、誘い水になっていくようなツールになるのかなというふうにも思いました。ありがとうございます。すみません、米田委員にお願いしたいと思います。

(米田委員)

先ほど川本先生から孤独死で3日から1週間以内は孤独死で、まだいいんだよ。という話がありましたが、それ以後は孤立死となるというのがすごくこういう考え方があるんだなと思い、そのことを知ることができ感謝しております。

私は医者としてよりは、地元に住んでいる、下町に住んでいる人間の立場として、最近に思ったというか感じたことで、私のところは、旧北区と旧大淀区の境目のところに住んでいるんですけども、川本先生もよくご存じの地域だと思うんですけども、患者さんで高齢の方がいて、民生委員じゃないですけど地域で結構活躍されてる超高齢者の方がおられて、地元で淀川天神祭というのが7月にあるんですけども、今までは2日間で土日かな、2日に分けて、2つの地域を神輿とかで巡っていたのが、それが実は今年から1日だけになって、しかも地域も1日で回ってしまうと。やはりその理由は、若い世代が参加されなかったということで、全員高齢ですごく少数となり、祭りに参加する人がほとんどいなくなっている。若い人がやっぱりいないというのが一番の大きな理由だそうなんですけど、これを聞いてすごい危機感を感じるんですけども、大阪市内で北区は特に人口増加してるみたいで、若い世代も増えてるはずなんだけども、全然若い世

代が我々の下町というか、梅田周辺は御堂筋を挟んで東側の地域と西側の地域とでは全然違うんですが、東側の地域でも、若い世代増えてるはずなんだけども、我々の実感としては若い世代が増えていない。周りに出現してないっていうのか、どこにいてるんやろかなというような感じなんですね。だから、そういう意味で北区のコミュニティはまだまだなのかなというふうな印象です。これが世代交代として、今の高齢で活躍してる方が、おられなくなった場合はどうなるんだというね、そう不安な感じですよ。

それと、医療側の立場からすると、やはり徐々にですけども、生活保護の医療券を持った高齢の方が増えてきてます。やはりそれだけ生活困窮者の高齢の方が、徐々にですけども、確実に増えてます、ということでこれも非常に不安感を覚えています。以上です。

(川本議長)

はい。ありがとうございます。確かに若い世代は、この北区に住みたがっている。そして住んでいる。増えている。ただ、地域にはいない。という実感が見えないというところ、まさに本当に、どういうふうに、こういうコミュニティとの繋がり、これまでのコミュニティにどうやって関わっていただけたのかというのを、ほんま真剣に考えないと世代交代できない、担い手の問題というのは、本当に、今すぐにでも手を打たないと、なかなか難しくなっていくんじゃないかというようなご指摘だったと思います。

あと本当に高齢生活保護世帯は全国的に急増していて、一番生活保護の受給者率が高いのが高齢者になっていきますので、特に都市圏で独居というパターンの生活保護世帯というのは、全国的に見て、ちょっと北区の情報がわかっていませんけれども増えていると。そういうような人たちも、生活保護である中でもですね、ここで住み続けられるように、というのはどうすればいいのかという話と、高齢者になったら生活保護受けなくてもいいように、どう予防していくのかなという観点の2つあるのかなというふうにしてお聞きしておりました。

はい。ということでまた、こちら平尾委員にもう一言いただきたいんですけどもいかがでしょうか。

(平尾委員)

はい。そうですね。もう結構、皆さん、いろんな意見を言っていたので、それを踏まえた上でですが、やっぱり私も以前から、このマンションの問題というのが、ずっと地域支援連絡会議の方でも話が出てきているし、この地域福祉推進会議の中でもやっぱり出てくるという中で、その中でもその防災という切り口は、福祉って、いろんなイメージを持っていて、何かこう統一的に福祉といわれて、こうだというのはあんまりないんですけど、いろんなところで聞いてると、何か私には、今、関係のないものという感じの答えが返ってくる人が多いんですよ。

例えば、介護が必要だったら福祉というのとつながるけど、今、私、別にそんな関係ないわというような感じの温度感で帰ってくる回答が非常に多いのは、ずっと感じている中で、ただやっぱり生活、地域福祉ということになってくると、生活の中で、いかに近いところにあるのかというのを、実感してもらおう機会というのをどんどん仕掛けを作っていけないことには、参加してくださる方々も増えてこないのかなと思っています。

それで1つあるのがやっぱり防災という切り口は、もう南海トラフ地震がいつ起こってもおかしくない、大災害は忘れたころにやってくると昔はいうてましたけども、最近は忘れる間もなく次の災害が起こるといふ、そういう状況の中で、本当に自分たちが被災したときにどういう生活になるのか、それをどういうふうにして対策をしていくのかということ、全住民に関わる話なのかなと思います。

特にタワーマンションとかって本当にもう階段が40何階から降りてくるのかということ、やっぱりそういうわけにはいかないとなったときに、同じフロアの人たちとどう協力するかとか、本当に最悪どうなったときに、自分たちで何ができるのかということをやるといふのも1つですよ。それがマンションの中でつながるといふところの1つのキッカケとしてあるんですけど、それとプラスし、そうなってくるとマンションの中だけでは解決できないよねということが出てくるはずなんですよ。そうするとやっぱり近隣とどのように連携を取るかということの、そこのお話につなげていく戦略というのには仕掛ける側としては持っておかないといけないのかなと思、その辺のことが、地域福祉計画の中に盛り込まれていくということは、今後5年の計画を作っていく上では触れておかなければいけないことなのかなというふうには思います。

あと、その発見する力ってね、松本委員も川本先生もおっしゃっていましたが、発見して伝える。これって、僕もいろんなところで地域福祉に関わらせていただいている中で、本当にその自分の生活に近いところでの発見というのは、専門職でも、行政職でも、お医者さんでも、包括のヘルパーでも、見つけられない限界点というのがあって、それを唯一乗り越えられるのが、そこに住んでいる人たちというつながりの中での発見は誰よりも一番生活に近いところで見つけられる、早く見つけられる、ということでしょう。やっぱりそういうつながりって、どうやって作っていくのかなという時に、現在の計画の付帯決議の新たな視点で、「気にかける地域づくり」というのが出てきたんですよ。川本先生の前任であった新崎先生とお話をする中で、「気にかける」ってやっぱり一方通行な言葉に受け取る側としては感じるよねという話になって、本当につながりづくりとか、なんかこう発見したり、お互いやっぱりこういう「気にかける」だけじゃない、いろんな「気にかけるあい方」というのがあるんだけど、言葉のメッセージとして、一方通行にならない言葉というのがやっぱり次の段階では必要なんじゃないかっていう「気にかけるあい方」といふ、そういうメッセージを何かいつの間にか採用されてですね、「いいね」といふようなところで言うていただく中で、その言葉のメッセージということ、丁寧に伝えていくことがやっぱり大切で、辻委員がおっしゃったようにそれはやっぱり、わかりやすくな

いと伝わらないんですよ。その部分をどういうふうに計画を策定した上で、今度はそれをこちらが伝えていくときにどういう工夫をするのかということも含めて、議論をして、それぞれのところに持ち帰っていただいて、積極的にそれを使って、議論が起こっていくような形に、第 3 期計画においてははしていく必要があるんじゃないのかなと思っています。そうすることで、計画が実質的にちゃんと実際に地域で使われるものになっていく。そういったことを見据えながらやっていく必要があるし、そういうふうな計画になっていけたらいいなというふうに思っております。

はい。以上です。

(川本議長)

はい。ありがとうございます。もう総括していただいて、僕はもう、はしょっていきたいと思います。次期計画に向けてというところで、今日、本当に一言ずつだけのご意見しかなかったんですけども、非常に大きな重要なキーワードをいろいろいただいたかなと、時間が許せばもっとご意見を何周にもいただきたいというふうには思っています。

この委員会も時間の幅がございますので、次の議題にいきたいと思いますけれども、何か思いついたときにぜひ、いろいろと言っていたきながら、普段の活動の中から見えてきたことがあれば事務局に声を寄せていただくなり、私にですね直接物言いをしていただくと非常に嬉しいなというふうに思っています。私にとっては地元なので、故郷の 1 つですので、何かいいことがあれば、いいことができるのであれば何でもしたいという所存です。ということで皆さんのご意見を踏まえながらですね、また次期計画の素案というものに反映させていければというふうに思います。

次の議題に移っていきたいと思います。最後になりますけれども、その他として、事務局の方向かございますでしょうか。

(事務局)

特にありません。

(川本議長)

ない。ということで、今日の議題は以上になってくるわけでございますけれども、今日、皆様のご意見をお聞きいただきまして、実質、議長の小玉副議長に、最後にご意見いただければと思いますけれども。

(小玉副議長)

恐縮でございます。本当に、前任の新崎先生のもと、こういう形で私も、もう 2 年ほどお付き合いさせていただきましたけども、今回、新たにお若い、川本先生が起こしになりまして、議長ということで、雰囲気がこれほど変わるのかなあというのは私 1 人だけの感

覚ではないんじゃないかなと、皆さんもそう思っていたのではないのでしょうか。やはり若い方がリードするというのは、時間を見ましたら 45 分に終わりますよということで、必ずそういう方向性でリードしていかれたのではなかろうかなと、感服をしておるところでございます。また 1 年間よろしくお願ひしたいと思います。

まず第2期の福祉計画につきましてはご承知のように、令和 7 年の 3 月でございますか。

これで終わりということでございます。おそらく今後、第3期に向かって、スケジュールを見せていただきましてんけど、結構ハードなボリュームですね。それにつきましては、役所の職員の方、おそらくこれ、課長さんは、会議に出はれへんのですね、主に係長プラスでございますか、ちょっと私わかりませんけども。それとあわせて、社協の関係、こういう方々でやっていただきまして、すみませんが、その辺は、荷物は重たいようでございますので、よろしく審議のほどお願ひしたいと思います。

2 点ほどちょっと私の方で感想でございますが、1 点は話に出ておりましたマンションの問題とあわせて、孤立の問題。実は私どもの地域も、7 年ほど前に小地域福祉活動計画をやりまして、4 つの問題点、その 1 つが、「ノー孤立」というワードがございます。できましたら、孤独死は控えようと言うてますけど、なかなか難しいです。1 年に若干の発生はあります。今年の 3 月に 1 件だけあったんが、私のハードルは、マンションをどういう形でしていくためには、うまいこといけるかというのは理事長ではないです。理事長さんは、若い方やったら働いておられます。一番良いのは管理人です。管理人といわゆる心を合わせた話をすることによって情報が得られると。私もマンションで理事をさせていただいておりますが、今年の 3 月にあった事案が、仲の良い管理人さんが、「この 8 階のおばあちゃん、今日はデイサービスに行っていないよ」と、こういうことを絶えずそんな話をしますねん。私のところは 32 戸のマンションでございますので、オートロック等々は一切ございません。東西南北のどこからでも入っていただいて結構でございますねんけども、そういうようなマンションの中で、当然高齢化になってきている。お一人暮らしの方が多くなってきている。

そういうところで、そのときにポンと言われて、私、ちょっと忙しかったんで、スッと通り過ぎましたけど、何気なしにちょっと戻ってきて、「どういことやねん」と問うたら、いや、ヘルパーさんから電話があつて、ほんま今日はデイサービスに行つてはりますねんって。これは何や知らんけど、「これ、気にかけるじゃないですよ、先生ね」なんやかんやで、ちょっと引つかかって、すぐに理事長さんがいてはつたので、「理事長、ちょっと悪いけど、8 階上がろうか」といって上がって行って、「トントン」ってドアをノックするけど出てこない。その方は 89 歳で、お 1 人住まいの女性の方、持病がある、ということで、何回ドアを叩いてもアカンなので、そうしたらもう警察呼びましようといつてね、警察と消防を来てもらつて、隣の人が偶然おられましたから、ちょっと隣のベランダから入らしてもうて、ガラスをポンと割つて、消防が入つたら、お風呂場で倒れてはりました。現状は、意識が

ございまして、あれはほんまにうれしかった。これで1人でも助かったなあいうことで、その代わり代償として、ガラスの取り替えは5万円かかったけど、「これはすみませんが個人負担なんですよ」、「そうですか」ということで言うてはりましたけどね、今、言うてはる、ちょっとした形をね、どういう形でどう共有していくかということが、これが私一番大事じゃないかなと思っています。

それと、そのマンションについては先ほどいいましたような形で、おそらく今、500ぐらいの分譲マンションあるんですね、北区は。ちゃいますかね。以前は400なんぼど言うてはりましたよね。おそらく分譲マンションは私とこの地域でも30棟ぐらいございます。

その中で、やはり先ほど言うてた、マンションの管理人さんと仲良くして、ひいては岩岸連長がいつてはったマンション独自の防災訓練をすべきではないか。なんで防災訓練をすべきであるか、ということは、防災訓練というワードが出てきやすい、参加しやすいと、こういうことだと思います。それはおそらく連長も考えてありますような形で、地域のコミュニティとマンション間で出来ることによって、そういうマンションのお若い方、中間層、高齢の方が出てきていただくことによって、コミュニティが永久的に続いていくのではないかなと私は思っております。その1つのやり方が、マンションの中で防災訓練をすべきではないかな。私どもは実は今年の3月に防災訓練をやらさせていただきました。小さい規模でございましたけど、今後これについては、毎年やっていきたい。それをできましたら隣のマンションの方にPRしていつて、できたら、最低、豊崎だけでも30棟までは言いませんけど、10棟ぐらいの人がやってくれるような形で持つていくことによって、そういうコミュニケーションが図られて、何か光が見えてくるか、それを考えている間に、おそらく、もうじき、役員の名前が変わっておるのではないかなと、私も長いことはできませんので、夢としてはそういう夢を現状としては持つておりますのでね。

できましたら、今回、第3期中で、今の言うてはるマンションコミュニティ支援事業、これはご承知のように、平成30年からもう立ち上げてありますので、役所も取組についてはちょっと馬力をかけてやつていただくとともに、検討についてはその肉付けをね、もう少しやつていただきましたらいいかなと思ったりはしております。

最後になりましたが、これは辻さんとこの民生さんのワードでございます「支え合う、住み良い社会は地域から」、地域から何でも出てくるもんやと思いますので、できましたら、この推進会議は、もう1回やられると聞いておりますが、地域支援連絡会議は聞いてたら、年1回らしいですね、できましたら、もう1回ぐらいやつて、そういうような若い方、またいろんな業種の方からの意見というのは、ものすごく私、重要な意見ではなからうかなと考えておりますので、よろしく、中野課長、検討のほどよろしくお願い申し上げ、ちょっとすみません、時間が過ぎたことをお許し願いたいと思います。ありがとうございました。

(川本議長)

あっ、議長、ありがとうございます。しっかりと、おあとがよろしいようで、これで今日の議事を終了させていただきたいというふうに思います。進行を事務局にお戻しさせていただきます。

(司会)

本日は長時間にわたり、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。今後も第3期の計画策定に向け、北区社会福祉協議会をはじめ、地域の皆様、関係機関の皆様とともに取り組みを進めて参りたいと考えておりますので皆様の引き続きのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

また本日机に置かせていただいております、こちらのコースターは、本日お越しいただいております、鶴満寺の長谷川様よりご提供いただいております。このコースターは鶴満寺保育所のキャラクターということで「かっく MAN」だそうです。子どもたちが明るく、元気に、すくすく成長するよう願いが込められているということです。どうぞ皆様お持ち帰りください。

次回につきましては、年末までに第2回地域福祉推進会議を開催し、第3期計画の素案をお示しさせていただき、またご意見をいただきたいと存じます。日程が決定しましたら、委員の皆様には改めてご案内をお送りさせていただきますのでよろしくお願いいたします。では、これにて第1回地域福祉推進会議を閉会とさせていただきます。

本日はありがとうございました。